

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由に選択し、自由に生きる」残存機能を最大限に尊重し、自立を支援する。をモットーにその人らしく暮らし続ける支援をする。		運営理念を日常的に職員に話し理解させ全職員に統一浸透させる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自由に生きていただくために、1人1人の個性を尊重し、無理強いする事無く支援する。		きのう今日と直ぐにできるものではなく長いスタンスで取り組み、理念は日々介護支援の中に織り込んでいく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族との会話の中に理念を織り込み理解していただく。		「グループホームかけはし新聞」や広報誌などを作成し、掲示したり配布したりする。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	違和感や威圧感を感じさせず、気軽に立ち寄って貰えるような雰囲気を作りをし、暖かさをかもし出す。(玄関前に鉢植えプランターなど)		病院と同じビルの為、イメージが少し固いので軟らかさを強調する。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居様を地域活動に参加するのは少し難しいが、地元の方々が来訪しての交流は可能なので交流を楽しむ。		参加する機会を増やし交流の場を拡大する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「姪浜公民館ニュース」からリサイクルものづくり講座「古布を利用したぞうり作り」に参加し入所している皆様と共にぞうり作りをする。		色々なものづくりに参加して地域の高齢者と共に作成し、役立てるようにする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価書類の内容が膨大な為、作成に時間を費やす事が多く、他の仕事に支障を来す。		もっとわかりやすく短時間で書類作成が出来るものに改善していただきたく思う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し意見を交換し合い、実際のサービスに反映している。		参加人数を増やした方向の意見を参考にし、サービスの向上につなげる。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当グループホームに直接関係のある機関には、わからない事があると指示、指導を仰ぐべく足を運んで連携をとっている。		市町村と連絡を密に取りサービスの質の向上をはかる。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットや関係書類を所定の場所に常時置きいつでも閲覧できるようにしている。		地域権利擁護事業や成年後見制度の研修に積極的に参加し、勉強していつでも必要な時に対応できるようにする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オムツの交換時や入浴介助の際、入居者様の身体状況を観察し、アザや傷の確認を早期発見に努め”ひやりハット”の記録もまめに確認する。		職員の連帯感を強め、相互でアザや傷の早期発見に努力する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利、義務を利用案内時に説明文書や契約書でわかりやすく説明し、理解、納得を得ている。		利用者の家族などの不安や疑問点に納得いくような口答ができるように十分な知識と資料を備える。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者と接する際に、話を良く聞き、意見や不満を出しやすい環境におく。		外部に表せる機会が面接のときぐらいしかないのもっと増やす。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は不穏の時何か変化ありのとき、随時報告を入れているが、金銭管理は月1回の報告となる。		職員の異動は面会に来られた時に紹介するぐらいに止まっているが定期的に個々にあわせた報告はしている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の家族宛のアンケートを活用して自由に意見、不満、苦情を提出していただく。		開かれたホームをめざし、意見や苦情を貴重なありがたい言葉と受け止め運営に反映させている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議やカンファレンスを行い、職印の意見を十分に出してもらい真摯に受け止める。		職員の仕事介助に差しawりの無い程度に少人数の参加でよいので、回数を増やし、職印の意見を満遍なく聞く。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	一応は職人本人の希望を取り入れる勤務体制になっているが、へだたりの無い様に配慮している。		職員の特性を生かし、バランスの良いシフト調整にこれからも臨む。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の要望に耳を傾け、なるべく離職や異動は抑えるように努力はしているが本人の自由という観点より抑えられない事もある。		職員本人の意思の尊重を重視すると離職は抑えられない時もある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	性別は年齢等に囚われえることなく本人のやる気の特徴を見て採用の有無を決定している。		障害者の職員や外国の職員も採用し、個々の特性を活かし能力を発揮した勤務を行ってもらっている。
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	まず入居者様の呼び名の徹底、対応など、尊重するべく会議では何度も確認実行を促している。		特には愛称で呼ばせていただく事もあるが、基本はしっかり押さえてもらい、人生の大先輩でもある事を確認させ尊敬した態度で接している。
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	各自希望に応じた研修をいち早く取り入れ参加している。		いつも参加する人が同じにならないように、注意して皆に行き 渡るようにしている。
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>			
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>			
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>			

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から相談があったりしたときにじっくり話し合う。		コミュニケーションを重ねる。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	通院のお願いなどが多く、ご家族様の信頼感を得ている。		連絡を密にする。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時のニーズに応じている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いつも穏やかに暮らしていただくように状況を見せながらサービスの提供を行う。		個人差があり時にはサービスの変更がある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を重んじ強制はしない。共に笑えるような関係を築いている。		自室で過ごす人が多く、ふみ込めない場合がある。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の話し合いの支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に電話をしたり、利用者との会話の中でご家族の話題を多くする。		ホームからのお便りを年に数回ご家族に出す。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の利用に居られたレストランや理容室などへ送って行き楽しんでもらう。		本人の希望を聞き、外食へ出えられる機会を増やす。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	コミュニケーションをはかり職員が間に入り仲間作りを援助する。		友達作りを援助している。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ほとんどできていない		時々、お便りを出す。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間のある限り、本人様の部屋に伺い話を聞きます。体調と口調、顔色全てから希望、移行の把握に努める。		いつも時間に追われているので、ゆっくりと話す事ができないのでなるべく時間を取って希望意向に添えるように努める。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の何気ない会話の中に生活歴やなじみの暮らし方、生活環境を聞き、これまでのサービスがどうかされているか測る。		1人1人に対する時間をゆっくりとる。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	目配り気配りで常に目を離さないように努め少しの変化も見逃さないようにしている。		これからも常に目を離さないようにして冷静な目をもち総合的な把握に努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族様が面会にきてくれたときにお会いして意見や希望に添うようにアイデアをいただける話し合いの時間をもつ。		本人、家族、必要な関係者と話し合えるようなタイミング作りをし、イベントなどを多く持つようにする。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族の方をそのたびに来訪していただくのは困難なので、電話やファックスメール等で連絡を取り合い御本人様の現状に即した計画作成をする。		ご家族や関係者との密なコミュニケーションの時間を作る。随時カンファレンスを行いご家族と連絡を取る。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合ケア記録を個人別に作成し特に気付いたことは申し送り用紙に明記し職員全員が情報共有できるようにする。		職員の意見を良く聞き、日誌、申し送り用紙に目を通して介護計画の見直しに活かせるように努める。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時には外の気分を味わっていただくために花見会やクリスマス会等をし、お出かけを企画する。		季節毎に公園などのお出かけ行事を増やして行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じてボランティアや福祉学校の実習生等をまじえて支援している。		他事業との交流が少ないためもっと地域資源の協力をお願いしたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人様が希望すれば必要に応じてサービスを利用すべく支援する。		他のサービスをもっと活用して生活体験を豊かにする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	西区医師会、保健所、地域支援センターの会合、研修会が作られている。必要な時は直接向かっている。		地域ネットワーク作りに努力している。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診を行っている。同居している院長先生の指図に常に相談している。		連係プレー、ネットワーク構築中
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて院長、利用者に相談して支援している。		専門医との連絡あり。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームには正看、准看が勤務しており、利用者となりをあわせて支援している。		
との	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	当ホームの梯院長と他機関との医師と顔をあわせる機会があるので、時の応じて利用者(入居者)の事を話し合っている。		45を参照して下さい。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族、医師、スタッフが良く理解しあっている。		利用者から話し合う事が良いと思う。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者、家族の話を傾聴して意に添うように医師スタッフも理解している。		49を参照して下さい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	不安を取り除く為、日頃のコミュニケーションを重視し支援を行っている。		ご家族と密に連携を取って行く。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他利用者の中で個人を刺激する場面がある。		記録物は目に触れるところに置かない。言葉かけや対応はやさしく支援していく。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人様の意思を尊重し、なるべく希望に添えるよう支援すると共に優しい心がけで納得していただく。		説明を納得していただいたり意思の表出が困難な入居者様への対応対処をどのようにしていったらいいのか課題である。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ本位で支援している場面も時にある。		ADLの状況に応じて1人1人支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日着るものはご本人様に自由に決めていただき、様子の不可解な場合のみアドバイスする。理容、美容は担当の職員がお連れする。		出かける事が不可能な方には訪問美容師に来てもらう。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは出来る利用者もいるが殆どができない。		根気よく関わって一緒にできるようになる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が欲しがられるものを召し上がって貰う為買い物に出かける際、スタッフが買って来て支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	誘導できる方はなるべくトイレ誘導し、オムツ介助の必要な方は日頃の生活習慣を見ながらオムツ交換という形を取っている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴されたいといわれる方もおり、毎日お風呂得を沸かしている。スタッフが見守り、会話しながら楽しんでもらう。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人1人のニーズに応じて昼夜逆転しないよう常に声かけをし1日のリズムのメリハリをつける。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人1人のADLの状況に応じて役割分担などを決めて支援して行く。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと共に買い物に出かける。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スタッフと共に買い物、散歩、四季折々の行事の参加を行う。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スタッフ、家族同行を働きかけ花見、食事会など外出できる機会を作っている。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が気軽にご家族との連絡ができるよう声を掛けられたら直ぐスタッフが電話を掛けられる体制でいる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が訪問された際、スタッフが大きな声で挨拶をして利用者の日頃の生活の様子などを気軽にお話している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむえず夜間のみつなぎを使用している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段など危険な場所に限り鍵を施錠しているが出入りはスタッフが見守っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜問わずお一人お一人の見守りを行い夜間は巡視の強化を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	スタッフが一括して本人の了解を得た上で預かり保管している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者に応じた対応の仕方を話し合い実行している。		吸引機を設置中。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医師、ナース、署からの指導を受けて日頃から理解して実行している。		応急処置の対応等職員の勉強会を実施する。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの建築が丈夫にできており、スペースもあるので、むしろ地域の人々に配慮して全体で安全を考えている。		西消防署まで行って訓練をしている。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に利用者の様子を逐次連絡して話し合っている。		家族に対して1人1人に細かく説明して話し合いをしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化には直ぐに対応している。		発見者は同居している社長と即座に連絡がつく。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用の理解、確薬の管理をしている。		薬と処方箋は医師の指示に従っている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表を記入し個々の状態をチェックし、それに対して水分補給や食事チェックを実施している。		原因を究明し予防対策の具体的な取り決めをしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分でできない人はブラシを使って職員が磨いたり、綿棒を使用して磨いているポリデントで入れ歯の手入れもする。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は個々にあわせて取るようにすすめている。透析の人、糖尿病の人には特に規程を守っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	病院が同じビル内にあり対応が直ぐできる。インフルエンザの予防接種をする。		消毒液等は常に所定場所に置き手洗い(職員は特に)
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は常に新鮮なものに努め安全な食事を作る事を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場を広く取り家族の方が出入りし易くしている。プランターに花が色とりどりに咲いている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには色とりどりの花を活けて飾り花の香りや色で季節を感じてもらっている。		リビングや廊下等照明は明るくするよう心がけている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由時間等はホールに出てテレビ等を見たり週一回程度でカラオケ等をしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が入居前から使用していた家具や使い慣れたものを配置し御自分の本当の家のように使い勝手よくして頂いている。		床はフローリングにしドアの色は淡い色にしてテーブルは大きめにして椅子は座りごちがよく腰に負担が無いものを使っている。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓や空調機で御本人様の体調やご様子に合わせてこまめに行っている。		空気清浄機やエアコンを日中掛ける。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台、トイレ、テレビ設置等身体機能に応じて安全に生活できるようにしている。		風呂場は出入り口広めで持ち手をつけ誰でも負担無く入浴できるようにする。2F3Fから外へ滑り台をつける(火災の為)
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	室内の洗面台やトイレを設置した部屋もありその方の能力に応じた部屋の配置を工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭部分が設けているので日光浴をしたり、外回りの花を眺めたりできるようにしている。		季節に応じ苗、種などを皆で協力し植える。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない